川崎市調査票点検担当からのお知らせ　VOL.8

～ 評価軸（能力）について ～

令和３年11月より川崎市様から要介護認定事務業務を受託した（株）日本ビジネスデータープロセシングセンターです。川崎市様と協同して認定調査票の適正化や効率的で効果的な業務の遂行に取り組んでまいります。

特記事項のご記入の際に、留意して頂きたい内容を以下に記載しております。内容をご確認の上、認定調査票作成にお役立てください。

評価軸（能力）について

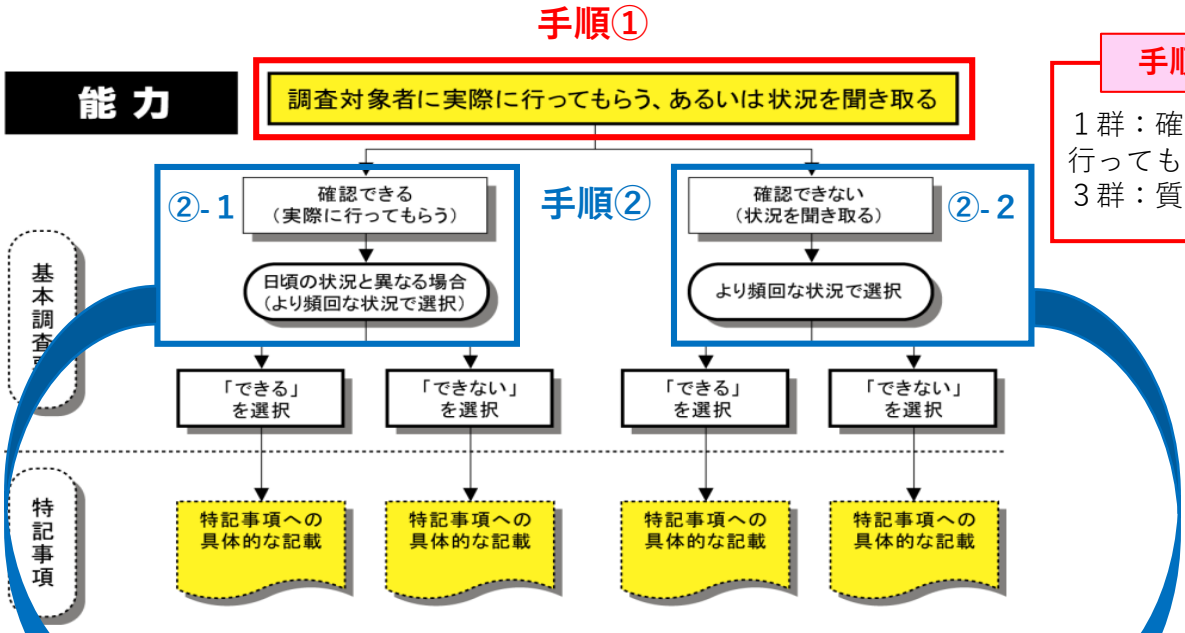
調査項目には、①能力、②介助の方法、③有無といった判定の基準が３軸あります。今回は①能力について取り上げています。

能力で評価する調査項目は大きく分けて身体機能の能力を把握する調査項目（１群に多く見られる）と認知能力を把握する（３群）に分類されます。

能力の項目における基本的な考え方

能力で評価する項目は、当該の行動等について「できる」か「できない」かを、各項目が指定する確認動作を可能な限り実際に試行して評価する項目です。実際に試行した結果と日頃の状況が異なる場合は、一定期間（調査日より概ね過去１週間）の状況において、より頻回な状況に基づき選択します。ただし、2-3 えん下の項目においては、必ずしも試行する必要はありません。

◆調査項目の選択肢の選択肢及び「特記事項」記載の流れ



認定調査員テキスト2009改訂版P.21

手順②-１

確認できたが、日頃の状況と異なる場合

↓

調査日より概ね過去１週間の状況を聞き取り、頻回な状況で選択。

手順②-２

確認できなかった場合

↓

調査日より概ね過去１週間の状況を聞き取り、頻回な状況で選択。

問合せの多かった項目について

認定調査票の点検時によく見られている定義や選択肢の選択基準の誤りについて、以下によくある事例を記載しております。

2-3「えん下」選択肢の選択基準

【1．できる】
・えん下することに問題がなく、自然に飲み込める場合をいう。
【2．見守り等】
・「できる」「できない」のいずれにも含まれない場合をいう。必ずしも見守りが行われている必要はない。
【3．できない】
・えん下ができない場合、または誤えん（飲み込みが上手にできず肺などに食物等が落ち込む状態）の恐れがあるため経管栄養（胃ろうを含む）や中心静脈栄養（IVH）等が行われている場合をいう。

● 例文１

2-3　えん下「見守り等」
職員が見守っているため、「見守り等」を選択。

えん下に関する記載がありません。

評価軸が「能力」のため、実際に見守っている状況で判断せず、えん下能力について評価します。

CHECK!

✕介護者が見守っているから「見守り等」を選択、ではなく…
○ 介護者が見守っていても、自然に飲み込める場合は　「１．できる」
○ 飲み込みに支障があったり、食事中にむせ込むことが頻回な場合は　「２．見守り等」

2-3　えん下「見守り等」
毎食むせ込みがあり、自然に飲み込みができない。「見守り等」を選択。

3-7「場所の理解」調査上の留意点

・所在地や施設名をたずねる質問ではない。
・質問に対して「施設」「自宅」などの区別がつけば「１．できる」を選択する。

● 例文２

3-7　場所の理解「できない」
施設入所中だが、施設と回答ができなかった。自宅でないことは理解している。

「施設」「自宅」などの区別がついていれば、「できる」を選択します。

CHECK!

✕施設と回答できなかったから「２．できない」を選択、ではなく…
○ 自宅ではないことが理解できている場合は　「１．できる」
○ 施設と自宅の区別がついている場合は　「1．できる」

3-7 場所の理解「**できる**」
施設入所中で「施設」と回答できなかったが、**自宅でないことは理解しており、場所の区別はついている。**

バックナンバーはこちら☞検索ワード：「川崎市　認定調査業務委託事業者の皆様へ」
URL：https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000133882.html